へ13
2132
85

南京紙雲會 桃花流水序

南天低ぐ故小南斗の居不見ゝ。
玉澤乃七曜九曜真向の桂子顯。
一名と大小と唱ゑて。芝乃鏑の新太
左衛門腰と離さず。將棋百番
筋の形小等しけ行べ。山友祝

△山崎文庫
へ13特
2132
85
85
藤原文庫
39

僧を成ぜんとして花を折し。仏書の施を採くれ曜子送り典家を
以説て七曜を通ん宜しかるべし。大
師帰られ客ハ忠臣蔵とうもう
見物られしが百年ぬ。紋日の痛
事とくるしくも当付自腹を切

やう歌をうたん。戸は澤の宮
ぐ扱て天王夜宮の桃燈彩
と号其明るをかりて云ふてもとと
まうを和二湯の
人通しとうづのえよ
いぬの書

紫英子香保道述

序幕
二立目　館れ與向　鶴ヶ岡別業
三立目　東家堪雄
大詰　旋里出會

祇園祭燒燈藏

蘭奢亭主人著

初幕

[illegible]記の[illegible]むり[illegible]扇ケ[illegible]京小名小[illegible]
[illegible]の奥方かわるよりの[illegible]
[illegible]中居さんまでこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
きりなして

いろは　いろはさんいろはいろん中車ハね大上善九上ゝ至といてゞが
対ゆゝさ　ちりぬ　ホニ　只今でハ洞子ハ[illegible]なりまさかるゝ

長喜

楊屋よりかゝる役者ハござりません吉原極の由来ハ
あごハ宗十郎よりやア久川くよふござり流しさよ八
宗十郎びいきおとこが来ておそらふ やまけ なんとでもおつしやいあとつぎ小徳
之助といふがあるかへよりござりません それそひいきまで宗十郎をまくきいて極
のうちへ西丈を沢をそ廿日ぐらせ〳〵おし らむまね まさくしやア路考がきいておつ
まいおとましき勤ましさおやしれのたくさ又ハきれ
ひ江戸ねきで百両の毛ハおそ多けもいろそ菜だりお
お材あそげさそてよく似ていろしやひましよ わきさ

かんみへらむうねさんころちやア粂三がやうござり
ますそよア粂三とのかくいる菜三さんぞうちゝが
よふござりませうね ら されが祢へ あ そんなら粂三
と冨三さアどうらくんでござりましやう やまけ そうや
あれさことでござりまさア冨三ぶんさ あ それども
粂三も今やアきくりのでござりますそさ
ふかそあろう や されくごらん女形の巻袖ハ臣操くく
そなたなり
ふやハ路考がつぎにおすまいとまろてふるきの京大坂そ高めね

ヲゝや此へ江戸の新をたく
嘴のさくさせうふあるてえる【ら】おんなれへいまへよくなりまし
トゝるをもさゝゝろへよくま
ワりこゝて
さづてござんすれ【京ひも】こんなうちゝがおうれたまへさん
どもの躾うゝざゝりつ銀晩なやさとおとんて女のやうでで
ざんすんトいふハ墨吉町あんかゝとこゝろ使しおゝさの新京あるる
がうぞも芝居のしゝかしといへかとんどうつまうされハどう
いそ安なれと思ひ立んたと以よあれハどそまいそ女がうハされがむねをあそ
あがいてうり面る気がくいふてふ残るりしく気るをとるれど断ごさがあるを姿
うけでふハ大ょりく以かれうかり
をうつくとえりまれおるるらろうて気もと【山】いおるるさんぃ わとんとゝるえ
やいまし【おかる】何でござりますへ【山】おまへさんの似しね
この笹の屋とでうんじおひらぶりくさあうんおぞいへ三五
でひうぶつさてでござり御しさョ【京ひも】ョヤおまへハ大ひどうり
おきゝてござよ【山】うちぬ残るさろしが【京】それでもひらつぶそ
といてうをとうてさあの【山】ョヤけしかゝり絡へてのるハをしけて
なござんへの家のつをもせんてゝをと【い】ちうしよんでそほ
せうこれござらん慶美人が付ておりますれ【閃云】白様丈の似お
勤務ゝし気ごくの若衆へつ気をうせてよりし　のちま六
新ゞてせう迹のとこうえ大夢りラヤられとろくあるのくれとまとよ

じがあるがすんだよくござりますね 〔客〕さうさそりやア評判記

みやアいつでもお家でねげいしやのことをいつてあるよ△

絲よりも事をとりますからやア体の作者のつけるものだか

らちの天性よあるこふの家でござりますもん分とちがう

てるのがねへのさ面白くござりやせん此夜のところが本の

とうかくごうされたで其の役者は世の者かうござ

ありませんかそれでごう役者も骨がおれやすよ私が思ふには

いうことつされ西作をもつて来ておめへらけや

しやう西面八木舞台三月より二番目ふさんとかへ一ぢん

高くするところさ さんやすがへでござりますてあるはあつて其れこことあらく 大あの縄の花が大

じん杯らんの下がおく場にアノぶん思ふといふ人は十代めね

んも以前は本でもすんつくが思ひ時まくじりつくあまくそ

みされるものがでやうくしこうら ひやめくこそも今じやア下毛

く切ぬいてまり思ひも唄やあのとうけることな下座へ

しらくやまして今じやア市紅さんがとんだ舞台甚が

中の向しいそれでても調子さんむごでへねへ 二丁町八百蔵のこ さんかげでもさね

づけがみにくゞれてあるよのりそ
又姿擬子分を致づけまする同じ[ら]久しいものさ四丁寧な挨
づけまいひあきろよまふきまてそぞろうしろうふうきうぐでとあぶ
ころさうてそそそいろ思へ本ふういろはかのうえ思へい
きんざえんで[い]ヲヤかりひころかどうするだヲヤおきさきさんが此ろへくるつ
てゆらんトおらぐくいわる[よたれ]いろはさんそろくしやアモウく此ろう
おられしいこんでござりませんよアノ忠ん猪びをつてしもら
荒の前卯とかまどのおしさワてくしやアあまり伏人入て
あまりておれますヨ[い]ヨヤおまへ江津の前がきおきさでい
あがろ腊まるぞよ[よ]イヱころさんしやア荒の前ふまいてしま

すら[ら]ワさくしぐもへそんが怜るしやアおかなまは雛人が
ちんござうはござらア乱あるさうきせ中月園十乃れ
いるまいまん[よ]ヲヤとんど年のちぐろくそれおやアおまつ
長ちつじやうんおそうまゑんどホミニトアるぬこともふくわざてひまるろ
あのんざよらふおとし[い]いゝくしが大切なりのとおかよかけようか[ら]あ
んでござりまいん[い]これでらん下よ中車とよトいふ中車がちうと
ぞろくほまあし[ら]ちろしおきせトいろかるトはよ[い]アレかくぐしめてゐるかくへい
ささ御あるそよトおきすふしんでおますよこうやアころさんしやア此のらなかへく

大すでござりまそ【ゑ】おうるさんハ藤の屋の姫
でゝうごらんぜよりゝ世侍者よりまゝのおうとひさ
あるそさら新車いぜのさでござりませうよ【め】マデおう
中小性の勅年さんさ【ゑ】さやうゝ影老粧乃
ほうしゝ墨さんいよゝ墨さてゆよ仰てゆうまし【め】かあ
しおゝ四さんぜれおゝ月桃井梅の屋中うゝ五郎
遣ぐざりゝゆこゝぜ祝【よ】さぞうゝきうござり函
しやう【山】泳ゆゝゆさ函もよふござりまし【ら】テ々ちうん

ハまうゝ山科さかやちでもお家ダんゝちうひが九
おそ文稲ハゆゝしいおやぢゝ孫ニア侍者でいうゝ三
八条義よりゝすんでござりまし【面】親ゆ仰ぬる
殿子ゝやゝで定ゆゆさんもいつぞ待うでござりま
ちよされでうゝきうでござり函やう【よ】さゝづる藤
義でござりまそ【ちゐ】くゝわさにいとダるぞうイ五ゝとんぐ
こゝ成おうゝきゆりまそこ函ハあのぞうゝどやアござりませ
んものとさゝづる勅年さんさ【ゑ】イ五ゝ勅年さんやあ

男女義ってもあっておかしくないゆうてるのかうまいかるさん
ろうろうとだろう
ら
あるんでもかるらん屋さんとゆうそう
ゑ
イヤエ師
年さんいるまいたらまいて水が出るうまいすれどもハ滝殿や
ろうか男どもんと一ヒとまゆ濁をあけてもろとうん
でもいいとひまいるんヨ
ら
ろうたふこゑがやうれまえか
ら二度のはぜんと二度なんてもようろうごろうゆを
ゑ
おめ義ってあ一度でもようごぜんまいす行ってるひもうれ
おるハきもおもあめ義ってひろうれんとあってそてる
ゆるうとうてたろうそうどもどうてある
ゑ
おかるさんかまん

さんハゆもあさでが出ようあるうよ酒ろくか出るさ
おるんごぜんまいんのトいろうろ行ってあ
ヨヤけーかるりん
ゑ
ホイ四名ヨトいってごぜろでゆくさーいろうて
もうけんどもあーさんの紙ろうさ
ら
ふけきるつとそいるのふるさぜんざいるのトるもとゑ
ハさビのか
そてさ
ゑ
そろうごかるはの紙とのの赤そ紙よ脇と立なさ
おるーいるまい
ら
おるんハいるでもそうぐタ郵ゆ私のまん
にあるむべ山をはんとうちるさんなとろてよと紙ろうさ
ろうけさ
ゑ
と神ぐもかるんのやうにもど立のるう

のところへゆきやしたら鳶鉄でおかへはいらうか何やらやかましうゆう
ござんせんよ[ち]いらざることしやうがあらへ[い]もうよんでもおかね
ひもきんもござりやせんからおかみ[図]ハしんきんぐあいにおかやぐ のうかゆきまれ[よ]さう
くらもの宿へ来りまして　たらいへかゞみのうろもとなりてみなまでのかう[い]シヤ
ころやアおいらまで菊様よ申してござりますね[め]コレハ
咲んのおよすがのかゞみかへとそんといわれて見ればさん〳〵
がりへござりませう[い]おさんかへまたよくかむでまゐる
がりまへてござり御もちヨ[忍]シヤ大きなのがござりますよう
惣の子のくびよ似てかりまして　トいゝさうにふしまる[い]シヤよんぞ
ことづかへりのとそんなこと誠すまりまするが[忍]よろしく
やアかへりますがいつそさまでござりますヨ[め]お広蔵さ
とそんとくるとよんでとまつてやりまして[山]よろしくども
のぞんなさん晩後日おやど入ぞとおかのあゆして[忍]その
やアおさかしてでござりませねへお宿へどくでござりますす
[山]私ちの旦那さんよお宿といふてござりませんからそでご
ばりましへハそれどもお宿といひすることしてれて[図]ハどまゝう

い　ツて日のお帳でござりません　山　そこで日を一日〳〵
塲の内にて其人一日ハお松まさ一日ハさくら町あくる日が梅むらを
猿之日八木挽町ヲアそれで一日日ござりませんどふせふやまて
わたくりざんは又かわりには
こゝのてんぐの詠やへゆく

二之目

ある日かろ八中若や病気あるが思案へ代参として　忘
国とつれ立年ぶりとうけたるに他の参ぐのほうらひとつけ [illegible]
おやぶろしきづゝとよふ久たげたる江戸へまゐりたる下の座
此緒をとりしがおりしも浅草中の五日八まん名ん日のことな

れば他ても参るのん [illegible] く味も浴る坂捨門の徳兵 [illegible]
の会稚子神の若ん [illegible] いづれも [illegible]
くさびれて此海参のさらの [illegible] 部しまちくる辞
きげんそて [illegible]
鮭　そやえやむやのへどうけつか椎茸とばかんぜ　虎
されのあんぎうハござ身へるとしてゐるろう
あつて伊勢べい　色　牟一ツぐ八おやづあぐくらきて廿年
ずんくん　馬　今どれそれいくりんら [illegible] りそけんぐるがい
つなへぐの十夜づゝ　熊　あんなやつラ出よぎずで刀を抜の
れでもあるもんぎ　おかやのかくる時には
馬　コウ　あとの女へ [illegible]

みなんてゆるせめんなやうな遊(わざ)でもくべらかるとうそ
まじやらめうき緋なん【巴】うきアレハノおかうとれしかれハ
ゐしるよみやこずともいうぐらう【馬】ナゼ【巴】足(あし)をや
る尾から太鼓(でん)のやうぞ【馬】おきやアがれてへんでてこ
や
【馬】おれがきんそてみななんど
よかどけるたるがまらへりここ中へ伴とかしまけてく位の女の
尾(お)をてけばうらそであんそくらみくちりがよにけ妻
もてるかうかれかできあうくかかるとこくへかづけじが今ハかぐ
れむもあるそれおれねそうつられをひかけなえるみもと仏堂の
さゆうぬかの屁の毛 めきてうでちうくとくゆれがそれそを

るよりみる二日まとりてかるとうけつるかやつかひらでゆし友字よ
かうあんて三月ぐらうもうずげるかハん紀よくてきうえへまかる
さよあうたまるやおそれりんてまかくちりかじれ丹げさうてかう
るハかりとまいさつきとりくされば
【さる】あるさハ平野(ひらの)納(なふ)平枚【納】これハおらし元(もと)のみるを
じのこれがお供(とも)もおしいるがれとくでる【か】いまのさんぎ
でらかとくべらみげ御しきトらつらもの三人ハかうるとうしえ牛丁のかうなかえる【豕】ホか
かるさ母こふひろつ夫婦まちさら餅(もち)ヲヤ納平さんある
さんぞ人ゆりてこれ【か】今のさんぎとあるそれかな絵(え)で

すりくものがれさまよつてよくお褄やてらんな［忠］そ
れん西がさふらんじまんぱ。まづかかけがしもあそばされぞおめ
でたうごぶりまんべ［勘］サさやう貂りがきつるべし桜着
江田屋それへつくころしかくぞするに紅よりつえおく
なきべしまづくおさん〳〵ト
［切］ハさりよさりて女九右衛門とこは男一
人さしこまれて住みて切［勘］八二丁おとこゆく
江の口八丁かどもゆうちらるりくゑらむくるりれ女六こぞ兒
こともずんでゐるされ
［家］今母さまへさんへぶらりして勘平さんよかかゆんなるさい酒
しらん［か］ござふしてあそばれか出来されざらうぱ。而方さ江戸兒
あちらとえそてあるものハおくらげるさいの［家］こそ附そらん
さうござりゆしこね芝居のやうでござりまする。まて
［か］イヤモウワしやあるてりくを持どこつでいあつ
さ［忠］まさ姆りあれごらんしんとあられふりかつかさらは
らしんと游の座ごのこを待でござります［由］かんよりかぞ
つしぶ総［家］もこおまへさんも月夜にかんなでそろくお出
あまるかつえ雛義とそろつてかよしい花ずくらえ

もゑんでござりませぬふうて時でござりましたべ勘平
さんよふくりしかぬひうまつこよふおりませぬいの
それからかぶおお出入の小間物やの所でまつてお出なさる
て今のはれをみアさろくりとおりかりませ ト物をいかけ
あ こりやよろしうござりませぬ ト思はくして か それお
よそげしがぞつて ト六兵衛加古親 家 八まんやうにふ八まん今
れおり引合あふ人尾がありのじやござりやせん
与 かんぶまてえハござりませんあとでこうくあいで

そものよの人さあゆきさん か それでもそうしがにくうアア
ト引きつねうち 与 そこそこさくつどもふかまさせるされしませ か お
だらよかうこへあとおもりとゑてしんすさこねをれゆへ
あ そそきはすてもまぎかひよう身のうえよいやとお
つまりまませう ト小間物やのまへくるりきるらるれば 亭 かど栄おめへさん
がらはは代まよいろつまをん御しろおいきやへお前りでで
ぜへまひ アア おとうすせ今まし かうは二ちへ上ん 医 八小身がごあそをと
よろゆへゆきまちゃてとおてもめのごくし 由 八門口ふきうてひと
勘 うくろとこえてよびてて勘平こゑをかけられゆへおんすうそておるそまを

ゆるしよとまろこうらくて 加 ゑのやうとかくとかうがくと出 兵庫
とうてゐる 勅 ちんとうとまろれきこれだ
きもちろう 面 勅 辛さんあるさらとお孫びがごぞろまん
ごうごこちくいまろてゆさうませ 勅 イヤこれそく
おまうごぞうねまて孫びひとらくい 面 ハイトてれ あの名
ひもさんハ仍をしているさる トかとのぞく そられる 勅 サアそ孫びひろ
筋ふ祝子 面 ハイアノウかるさんが兵今の出れとやーさん
くろんりやりまして 勅 イヤ礼いくそれいろにかぞねさーたるぎ
でもごぞうねよう利何ぞうれ 投有お嬢 いまもうとそ

トさんとうとまろる
ゆるを祝をゑ人 面 ニアハ お祝ぎ下さうませ 勅 孫
辛ノウかるさんおまうさんハをらぞうまむきゑ
つくおくんもきません ニアこちくいお出るさうませ
トかうやうふ 勅 ぞば 勅 引 の出用紙のぞんゑうまうぞば
やまる 勅 ハかう イヤこそ元方ハ動 れをてうろうのさる
しやし祝をて
の辛ふれば女義さハいさせねをぞんうませね
ぞトまろられて二人ハきまろんとんざこうとうてゆどんもきこと
ゆねこうこうぞうとぐ 面 ハきすこぶされゆうこそ
勅 辛さんあるさんをひ辛ぞうろう

やうまをせおるさんにかまへさんふこぐれく出でろ空
よくじもうしくあぐくびぐどんれとそしかし
どあげんくろうやうまくぶろくいやしれゆま
もうくどしくそを祢のよびされ極のふどんぞか
どけてやさいかぶ云ありしかけてかんうまれば
菓ようくらきんのよいは精かふさん式くそと
けるこうもまへさんろかぶけられてくやりぐ
動そうやうるかどの色紙よ心うれ着へうもぶくも

奥されか御をさかうふどの市中まおらく動平
と蜜通いやくくへのうくもくづくされ
ばかるどのそもれくふも車濡ぬぎうれが中ん
せろへるそかにどんもしど世長年八四元下されい 裏
かしてきんくどもうれかよ知るへもかれどへまも
もるくくもどうまあれくりへいややろ元れ
へきくくも二人もれへ屋敷へくれまれへかふ
さんくもせくんへ出まくれまあれ三人をへくやや

思ひけりされども遠平ならでもお称ひありけり【動】これハ
若きしかちんぜんの中にある狼籍と追拂ひされよりかぞれ
がのもんいとみもいさまを思ふされ多遣よりふけりしてみぞろう
小身なるものいかゞなれども生を元守出してひとつの川に利ねを
なれバ見聞よりかくだちぬ遠平ならんの高名も肩をならべし若輩

おそるゝ【家】ぞ中ず方おかまよさんど下にゝをてござるへ下人どもか
さらにぞ当時本家のしぶろ印平おかるが家を存るつけれバむげ
にもあらざるものなれどもいちひのしむとむけさん主と同じ死
てん家とはうきしきせざるありかでれちぞのぞてあれける

【か】八幡やと見え元年のころにの妻をくすりけるこれハ下より人の女
つくおがりくもぬすまれたせのよめ身の出合をとりされ乃
めの中やらんへくりの許をとてされがるつる人みかりく出きり所志う
そをもろひものあれど終高がをまてゆきて初めているところハ
よろいをちるをいやしやあんて入れの子も男ちりたとよかぶら
ろきくれ六つの子を初めりて六門内へ入られ女房あれバ身を
小世もくして御年もるしも少る杉原でかりるがいぞんの御内が
住ゐにありちふされてとくてんよ思ひ月のくるとをまちておる妻
れバ十四の人一同よりおもてかゝるふうけつきずけきりけどもかゝる段
いよくひまゝとて色ろよき名人がひらるゝ中にもやうやう次八ふねが
ある時の六理の角まへさとてよもんでおもてかるれバ多く騒がれ云騒
大かた本さるこひまれおるふをとこへ次八が内へつれ出れけり

三 立同

まず房のひさき所居よりきくへて町の名をさへも名乗のう
らのも屋も出まかりに一面せまやしきんげよられ所るが

うんざ神年ごろこのごろひとりぐらしなれる浜あり泳八ハうろ
ろうやうんしいろ〳〵ぶ物をどう〳〵斗めてゆりくらしんぜき
りうれいぶるまるれねもとくませめてとゝをゝゆよはまれ
てうゝゝうんきゝてゝをゝくしあるる日泳八ガ弟ゝれりはうるれの
世房よ鬼神の[きろ]このあ面ア[うんざ]此浜のぐまアゝ
ろうるまゝ〳〵ゐま茅ざこれわ人ガ浜ガくらアれるもんくき
れくゝらくゝがづぶ鶴のやうれさゝやアがゝ〳〵ゐをゝわくれ
ゝゐ人鶴ゝうぶをゝうゝゐまゝくゝぶやアぐるアゝゝふいつゝりふまゝ
ト[ゆ]ゝ行ゝうゝゝけゝゐうゝと[か]ゝうゝ[ゆ]ゝ泳ゝ[ゆ]ゝ[ゆ]ゝ
三ゐうでけゝくゝゝゝければ[か]ゝ泳ゝ[ゆ]ゝ[ゆ]ゝ[ゆ]ゝ
あゝゐやゝんとゝうりれがゐとゝくゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ[ゆ]ゝ[ゆ]ゝ[ゆ]ゝ

おゝるゝんゝゝゝうゝんゝゝア[ひ]ゝゝとゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

せん【か】あがりこごろ酒とりこ【き】あそかだこん宮てくん
ろをんのうちやのふせこ夢けてくゝ寄やせんとこをこ夢れ
いろここけのあ嫁ごこ嫁ごこ仕つけでも
きそやこくゝ初やアてくゝ色ごこいやせん【さ】こんごれ
ここのごやアここでごいやせこ高ゝ物のふいきこ寄
いこゝんごくこひこんごこふご未婚ハかこのこご【き】
ゝ小家ゝ去年も仰父母のゝこ寄こくこごい
こんゝ出ごでこくこやゝこれこゝ門のゝもきれごくさ

トここうゝかここ【こ】こうごいこきれこ
ゝこごここきゝ分て笑ゝ【こ】ひいて来ゝ出ゝこごこきれごくこゝんが表の金物屋
のこここんねむせこれ人をゝこ門こんで楽ここけこごこゝ亭
ゝこふここまここふごこ足世物ご祇トここのこてゝこ来ゝこのこてこ
リゝ代出ごこここここる【ゝ】ゝこゝこんゝ仰く出ゝ代ゝこゝ月のご彩
ここて出こここ【こ】ゝこゝこんゝ仰く出ゝ代ゝこゝ月のご彩
乙の寄こ縮やのこれ初乙どこゝかアね桐金の改こんに
こゝひてゝ出こゝこれここここごゝかことこゝこそこん
ごこで出ここここゝこゝこ出ごあこひね【き】ゝんゝこんゝどけ
（寄ゝ出ここ称【む】彩ゝ（出ごこここ来ゝやの大こんごき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
せうばまぐふてれてつゝあ
けくつき[き]ヤやいさゝあねくく[く]うあふいてんりん河とそ
れひとうでろうろうろ義理でわうてもんさいせ
ひぐうでやゝあねくのとそぐそのうでぐうて[み]六さんいやこる氷ぢ
りのいうぐぶれ[六]てしろうやゝ去年ちやぐのさん 昭裁 新迎
めくうくこんれのさまあさうへでうげやこいくうま
うくさ[み]うさゝあねくうちふくんるかくのいうぐうる

そうて別やまさくゝゝ[六]平[む]むしぐ[み]六さんこうちぐ円八
もきゝ[ゝ]みゝつれてのさくさぐハてらあが仕うまゆくうまゆゝ交交交
のくもはせよで西でものまうくていあげ切うと[因]ぐうろ
さあくうてれをうやもうちてこいうてうそんぐあねとうて
くうやいふあくうのでふあをくあのれ年のかのあてぐ年のくおいつうふれも[み]
おきんうさんりふいつうさみくいまあいうでもさうふやあ
ねくうさうろれ浅を八文出[ぶ]ちうさくゝが[ま]長
とうひやせう[き]そうやゝアようくうる収[し]出合てまあうくス
とくしやあうて内へうくスます[さ]こ[ま]このあんぐくゝ仕のくぐ一面和[ぐ]
うれば[因]いあんぐくゝ必とうもいれて
のどうりくくまやゝうくゝくうやゝうくくくもう

あつらへたけへにべらぐづしめさろきもさんつさとて鎌
ゆのろ〳〵ゆきやアぐつておまエぐろ成ろろくいろとなもやあが
つくふてくあまぐさんやアおれがちろさらある[illegible]ふりとれて
とろろさんとすれあまちて あろうどを
あろうどを

き 山あまア何とちやアがる[illegible]れど引まぐ
ろう月のあろはれれ入てあろうのぐげとさらいしてぬぐひのろぐつとん
ふあろろろてろろしあげよろもつろさわろろれれぐろろて小刀ぐろれ
いまろしあ入ぬ三ぬ三ぬ三

大結

[斧九郎] 年ごろ卒余色あく〳〵でうちとふとうちもぐ成るあぐう
ゐてべうとうといくを悪兵の羽織大ぐさのゆくさんどぢ年をの
かなり今うを人い言師匠がゆ侍 [浄瑠璃門] 年代二十七八中間そぐ
ちびんあさまうを交いうてうをのの上帯の帯ゆをうあいうをさのあ
さ〳〵上のさびすあきどうかうをうとんぐだをうあや織二れう
てあるのうを人あき今を人八所人出て [ち墨をう] 〳〵ごろ年二三風
俗ハをでうびしてみやぐうびいあう月八俗をの四をいりぐ
ぐうとゆりのるれきをんつううれば俳門が教上のをぐあゆへつれ
ぐらきをうをうわしも六月八七日より十九日ら三線をを今そ
をうをうあるふみちて豆のぐ〳〵行縄のをぐを巣ゐ後藤の
やのあぐ
やうり [俳] 斧氏高西ゐきらひ猫ゐ義お地下やてゐ

ぐも出元うぐ赤ゐ松西猫ごぐれぐ中り〳〵及ひもな
いをうぐやてふ [九] ををををぶ結ぐけぐ猫人 [俳] 鶴を
のみぎり人結を猫ひの人ゐうんをををうか
[九] ををぐさ江六ぐをの [俳] ゆうの坂やをつう
ゐるふ [平] ちこ おうくさん屋三西を夜江西ぐをうふこと
さ ありやぐくの門でも三人家ゐをうで四人世人出年をぐ
あを三戦を年帯をいう年をを今人若〳〵ちぐうて屋ひも
やんの帯ゐぐぐをぐををいやを [俳] うををゐ

の平そこが阪墓石代でございやとゝ弱ゲ示ん
そこらおっうんすぶいやゲりやん九りんえんとれハいしらげ
うんせぶふ体内神と赤紙ゲいろでも大ごよ体かの九里
ぎやの平さうふさこてんやんこ方ハ義美ゲあっさゲ今ハさ
つりさ祇体海苔の菓舎ハどんど凉しさふどや
うんのうそうるぶふ吹くる風の延寿紙トうこ平わっこと平
野屋でいぶくのこさこごろう称九体さんゲいこでご
かこまアくゲいる生活ハあいこんでこんこら

こんこる お方ハ猛屋で松ゲ神ノ松阪でゴ白いせ
うこ津の関でゴあゆこおしてる三ッ漬ゴとゲごふせいごろ
さゲ今ハどふゲの平そりやゲひうかこでゲせんゲ三ッ
花こらこ形叶ふゲぶくこ三ッ漬こらこらこ形人ねな
ゴハこつふも漬の法ゲ石アゲぶせんゲ形人ゲ紙ハ宿ハまろけ
りハてこいゲ引ゴとうすらことこらくふりでゴあゲぶ人な
ふけさやこうり茶屋ゲ形ゲ形ゲりゲ新宝ゲやア体さひき
ゴと掛てもけゲこの紙ゲ掛ゲやまゲこくでゲせんさア

トでこまごまとこしらへてこさせるハこと付あるこ
つけてちやこのんどやうとこまをそこハを 九 ぶんけるこいこをこしらへてこさせう 九
そこうこまけそ 利 こまこまこまこ

まるもとまるこゞ吾迄ぶくろ
ト小用ホ人ゆきこれるゞ
仏ゝまぐゝくゝまるとゝゝてあるぼこ 幸
ゞ家と 隠 ゞ家とゝるかろ
ているとゝゝこゝる 家 末 仏さん羅ゆんゝゝこゝ人ト旅をこれゞら
ゞてゝるゆゝヲ
ぐゝらゝんゝり家ゞちゞゞてあるこゝ 幸 ゝろゝ ホイこれハ
おこゝろ
ごめんゆせゝ 加 ヲヤ来さんゝゝゝゝくゝゝゝこゝらゞゝ成くんちゝ
ゝゝうんゝゝゞ知れこゝゝゝゝかゝゝゝゝゝ 東 十五二 ゝゝりひゝゝゝゝゝゝ
おこゝそれハ拝ふゝおめ人ホ今歌ハゝゝゝゝゝゝゝゝ思
つくゝゝゝゞゞこゝゝゝゝふ 加 ゝゝゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ安せそゝんゝ形ゝゝ 平 まゞめ
かゝゝ
ゝ外の事でもわゝゝゝゝゝゝゝゝ

アノ仏尼さんハ高野の国家老で金ゞまんゝゝあるし
そして通で男氣でゞゞよさいのわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きるかゝぢもひぐゝとぢとり極てあしてへ結さ（ゝとれて手
ちぐげさん
ゝ加ヨヤ采さんゞ日ゞ出れ保さんかるんでへとあやゑ
ゝとあつさ采あやうさをのたりやかさわゝのゝとさんかちをな
ちつちをあ稼へそりやアあへ（るとゝうさてゝさすゝとゝ
りんぐゞゝさゝゆ良大尽と切まるゝこゞぶいやゝるゝゝやゝ
ゝちちでいゝかせへ加行ちゝゝがえゝれ客へといで
ゝかゝゝゝぢゝちゝさんもちつてゝさうんをゝとゝでもゝゝゞゝ
ゝもゝいゝをゝれゞ（ゝかゞゝゝとわゝさ
ゝ采ゝかゝちゝゞゝいゝるゞゝゝて有）手ゝいゝかゝ

ゞひきんてつゝゞゝれもせゝとゝへのゝへ加そゝちゝさ
れいゝつゝを出ゝてゝるゝかゝはけゝへちゝがちゝかゝちゝて
ゝるゝもゝあゝるかゝ采ゝちゝいゝゝゝゝゞ加二十枚ゞゞ使物紙
ゝ手ゝ金ゞゞ小洗ゞゞれゝ采ゝアハちゝへゝさんゝちゝゝれへゝゝで
ゝかゝ出ゝゝゝゝへ（ゝちゝゝゝゝ

みもなりかねどこどうこうやをうりてまがあれいどこも
[平]かうこうはりめもやうとこのこのこの

ちゝ
ぢさま
【平】こんつァ大ちゝ
いるれ人
【平】そんなことぢやァれ人こうや
トいそれて
がんぢさま
【か】
【平】
んふかゝ
【か】
【平】
づあいさん
トそんぢ
【か】
【平】
【か】そして
【か】
【か】
【か】

もしてくんなさいこんがもやちよいとこであつてこうこう
いつけこと 平 かめんがさん利にらしい新としても男あやつ
吟いれんこ効辛さんが女房とりんさかうふこうらでむこつて
あそふ伸さんが身体をたき乳さんへ入しど裏板ごと伸さん
もはこれこたこへのいさこうかめんい効辛さんへのつてあそ
辞の恋の言葉遣ざあすやこめん 加 ハたづく五くそ
ういふここのこうこもこ家地ご伸さんが身とれで思ひ
のまこれこ恋男の新をふんでやりいやう 平 そこあるべき

こぐる 加 ぜんこいこうこ乳ぶ「づふちよれでれこぐ
やうがあやア今あけてもせんこ実があれいちこさあざ
がこんがまづこうやうこみがつこうこうこを男こいふの
ハ乳のおもひんざかこ伸さんあもちこふこうこへれこ
れんあん 平 ハたこうこび そそ紙をこく 平 ねんこ
ねんハこう変ここ伸ねこんあさんあれど
おざんこと 平 サア伸さんのは手ねハちふしやうこぐこ氏者ぶ
こふこけて信今さちめんハ新あよかこる枕ごちといこ

ちらうが指そきろくくそんなせくとふいえど毛ゆやァへさ
そんぞらう 加 そんなひけうな女郎ぞとそひすんそそこの
場ふなんじやァすんでもすりゃれど毒気と知らゆう
そんがさうんとそきりんそそぐてつき出さ稼へりうやァ
けりんさんがいまんの代逃さ稼へりうやァ金そろう
て実出ーーとふまれちやァうーーも名がすさうそんさと
平 そこへのみうんでいらァか今歌その先せがうそづう
か 四 わいさ 平 さてそろうと目の前でつき出させ

て仕さんのんいちのそくやうにしてあげてくすんぞ
加 今ふきやーかうよ 平 サァうぢくせそそ切るおう
きん稼へか 加 そんなうろうちやァ仕度ちやーやう
とかみそうを 平 サァあるそこへすつてきてそふうとそんな
そへ 加 平 さん位若男ぞ切てそんすんーーとあぐいと
そおーーそそど 俳 九 かくこのろうろ 平 サァどうーーう とそとそうとげ
かひ出そ そそきみすう 加 かませふぞうう
切り口ぞこうんとふてわ為の 平 あそこれ来のうへどうさん
しやうさ出ろそうう
ぞ みうちやァうひくくうそやーーさうれへ とまつてうぞんせう

指と
まく 俳 こうるうあてはいぢらしいこと
んでか
ことやあろうとめつさかこ
さうに菜やろうく トいんろうのさつけと出ていろうふ
のすきるやうり〳〵氣づうを敷をとび考ときこと
か 俳さんん実只指ておくんあんそか 俳 ときてやくか
かるの色をこんてこれいく年こかはこ〳〵ふ備用
もあるとやそこあるこやこんこをてこも ト二年あ育り 九 ろれとこれ
さ俳ふすんのすぐる指と切ころ〳〵いころこれわ〳〵こうろ
ちやうてかうろせん 俳 じやこうんてもつ〳〵ふせろなる出
ひもあるこいくんんじやかあいそふれ 九 マアこうまま沒と

酒でもはるつしあいる ト引こあるれうらうと たとくそこうの 茶や モこぶんあか
こうしき 反義こ意出異まこそてかんんが系ろ陽こさそ門限
もこれもまこれこうてお解を こまいで入て乗まこと
サアく なやと ト せうこうう 用んこびこと 師出が 中こ それ
ものんぐんのこれるこいこあてて
いこあろこものじや和こぢこい 俳 サアそれ
したこんこうごこ中くけこらぢこアあるめこうこもをぢふ強こう
俳 それでもこ意ハ 指のん 中こうこんじどもここれ 答 義へこ合
あやあこあのこうく 長下 沒こ おこうひてこくかいあう

してをきれい温氣の時分に紙ごめにあやまれしかん
イヤこゝ切さ指をこいぐも孔雀ぐさ
てこれくく秋の人 平 ひろろふかるさんかぐろろ氣とと
らまこく肝心のあびとあぐるんぐそこと あんまりひぐく
折ゝさゝゝぐこんらゝんぐそこぐ トわりぐところろ 中ちゝ
かゝゝゝゝかけ今きこゝゝ
張中のゝゝ生巻紙を出ゝ落ゝ指もろい甚指中ゝの外ゝ中ゝ清さ
おゝるこゝらぐこゝかゝろさ
らゝゝゝこゝ千あゝれトゝぐ合てゝ千あゝ清くおゝや

ま」トゝゝこゝかゝ紙 平 緑 ひゝ中ゝの外ゝ
ひゝゝゝ
しゝきれ切ゝもこゝ紙ゝゝゝゝやくく トゝこゝゝゝゝゝ 緑
よんゝゝゝく
平 右ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 平 ゝゝゝぐりまゝすワゝく
しゝふおゝゝゝゝゝゝ立ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つくりでゝ、[illegible]でやうをこゝろ[illegible]ふとりて、ぶいそ
ひでうりうをん 【ほ】 ちうぞくさらひられゝ、[illegible]
けり〳〵 【ま】 ちうとゝんもちるさんもよ 【か】 ちんゝ、[illegible]
とうつくしやうでめてはやうるせうゝ、ひとちうとど
うもうこゝひ出てうでなり〳〵ぼんざ 【ま】 ちゝの物とさ
つくりでめとゝ、さ、ぶりハ物ぶんこと 【か】 ちゝ〳〵ぶ平
とうでるがくをぐうさくうてうゝあんざそれぐが
指とうせうこゝいうんしゝさらぐをこゝおりゝれ

【ま】 ぶりふうこゝハ巴ざるざりの花こゝぶとゝ、ぶりも
すさほどいたゝこゝひざ〳〵 【か】 のこゝうぐ〳〵ぶ〳〵紙
ぶせゆこゝ〳〵みハこゝうこゝ 【猪十】 ナント
切りめいてこゝてぶさうぐあんどでぐぜんしやう
俳ぶハゆこゝ〳〵さんとゝ、わん〳〵ぶぐ九をえけさん
ぶりくいるこゝいふんざぐゝ大きれこゝこゝうれうる
とうこゝまぐかゝこゝひこゝ 【ま】 ゝ濡りぐけこゝうこゝ
さんの方ぐりこゝこゝうハ物ぐうげ出こゝ金ハ[illegible]祇

ざるの延年のうちゝ三千両ばかりあるを
【倍】ゑんまもわんぶを紙を出て指をとゝ人なごや
さゝゐんさんさらうね【京】さゝとあとゝらと
こゝんしてゝるゝやゝさゞゝくゝうゐくゝゝとのう【加】
ゝゝしやゝゝゝゝゝよ【板】きゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの男ゝゝゝゝゝゝゝゝ

祇園會灯炉藏　終

恵比寿年樂の神まつりて住吉は振
袖の新造寢所の吐しれ飯泡盛八
唱女と若婦の二口玉樓をげり情か
服小毛もあるまじきまつ男れ者と稱の於合
あるこをこの天とうばくうとれば川と名を
とる西女ありぶでは酢屋あ立どんりぶんど

風流に張重ねひしゝ伊勢ゑびすの屏風
しゝ密かに和ゝる戯言の書と藁奢
ゝ帝のこゝ人繼の源帰ゝ後は一牧しゝ
しゝ成あてゝいゝ

海宮水吉

抜

ゝ
ゝゝゝ表紙ゝ製ゝ彩ゝ泳ぜゝもゝ
色の大濤行ゝ紀ハ磁石と用ひず
此九曜と同當に京迦七曜彼軍れ
ゝんゝゝ高ゝゝ適の二星宮い天乃川
よ若月がやしくゝゝ新進の三ゝくゝの星
ゝ銀汀一応費ゝふ好宮ゝん軍末

[illegible]

の人の犬阿呆も抽ぐ〳〵さ〳〵んかく伝金

[illegible]月夜紫春亭の主人はりさこ

と成る灯[illegible]ぐ〳〵老拙の燭とゝ[illegible]

[illegible]板よ一丁繰〳〵寸さ[illegible]

水遊亭船主

青楼候言解　蘭春亭主人作

出来

いろ〳〵の客よりてげい
せいの表裏哀楽とく
〳〵ちらす

祇園會燈藏　同作

和川客の彩衣た
よ出たぐ〳〵とゝろま
ち〳〵ちゝ[illegible]

茶店の娼妓　同作

出来春出来

てれんまゝて家に
ちゝけんせいの拙秘
とわ〳〵

I.